S I A S R (Saitama Infectious Agents Surveillance Report)

H25年8月21日

手足口病

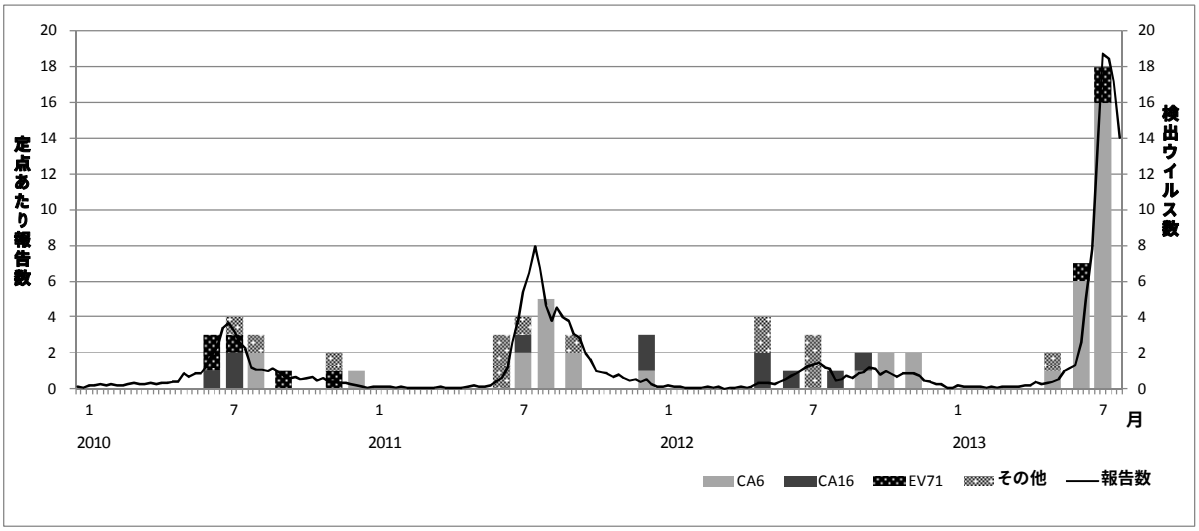
手足口病は、夏に多くみられる疾患で、口唇粘膜および四肢末端にあらわれる水疱性丘疹を特徴とするエンテロウイルス感染症です。患者検体から検出されるエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス A16 (CA16)及びエンテロウイルス 71(EV71)が多くを占めますが、流行する血清型および流行の程度は年ごとに異なります。

2013 年は、定点あたり報告数が過去 3 年に比べ大きく増加しました。第 29 週をピークとして現在は減少傾向にありますが、昨年同時期に比べ依然高い数値です。

2013 年 5 月から 7 月までに採取された検体については、現在までにコクサッキーウイルス A6(CA6)が 23 件、EV71 が 3 件、その他のウイルスが 1 件検出されています。全国的にも CA6 が多く、次いで EV71 が検出されている状況です。

CA6 は、これまでヘルパンギーナの主要な原因ウイルスのひとつとされてきましたが、2011 年には手足口病の主要な原因ウイルスとして大流行しました。2011 年の流行の際には、従来の手足口病よりも大きな水疱や、手足口に限局せず広範囲に認められる水疱の出現が報告されています。

手足口病は一般に予後良好な疾患ですが、特に EV71 による手足口病流行時には中枢神経合併症の発生頻度が高いとされています。今年は、埼玉県でも CA6 及び EV71 が脳炎･脳症や髄膜炎検体から検出されていることもあり、中枢神経合併症の発生動向の監視も必要です。



手足口病からのウイルス検出状況(2010 年～)